

## グローバル・ローライゼーションへの 力強く・迅速な対応

Power & Speed for Global & Local Market

19世紀に欧州で発明された自動車は、当初、上流階級の娯楽手段の一つに過ぎませんでした。20世紀の初頭、かのヘンリー・フォードが大量生産技術を確立すると、一般大衆の足として全世界に急速に普及するようになりました。しかし、大量に生産された自動車が環境に及ぼす影響の重大さが次第に認識され、米国マスキー法をはじめとする、各種の自動車排ガス規制が行われるようになってきました。自動車メーカは、血のにじむような技術開発によりこれらの課題を次々と解決され、我々ホリバも排ガス分析やその関連システムの断面でお手伝いをしてきました。

21世紀初頭の今、自動車そのものが大きく変わろうとしています。

一つは地球温暖化と関連が深い燃料消費の削減です。自動車の黎明期から親しまれてきたガソリンを中心とした内燃機関が熱効率の断面において大きな変革を迫られています。典型的な例として、CO<sub>2</sub>削減と排ガス低減のための新たな動力源として燃料電池が注目されています。一方では、ディーゼル機関の見直しやハイブリッド車の導入などに見られるように、従来の内燃機関を利用しつつ、化石燃料をより効率的に利用するための地道な努力も精力的に積み重ねられています。

こういった状況の中で、ホリバのエンジン計測グループ(EMD)は、コア技術としての排ガス分析技術とITなどの周辺技術とを融合し、自動車および関連産業の発展に貢献したいと考えています。我々は、排ガス分析を手がけ始めたときから、ガス分析はもとより、関連業務の効率向上の必要性を痛感し、排ガス試験室のコンピュータによる全自動化も積極的にお手伝いしてきました。今日では、これら自動化技術の集大成として、ラボの24時間完全自動運転システムまで実現しております。また、自動化の先にあるシミュレーションについても技術開発を重ね、すでに一部を製品化しています。

このようにホリバは、コア技術としての分析技術と、自動化ならびにシミュレーション技術を組み合わせ、エンジン計測に必要なトータル・ソリューションの提供を目指しております。

自動車産業をめぐるもう一つの大きな流れはグローバル化です。米国や欧州のメーカごとの技術交流に始まり、日系メーカの海外現地生産、さらに最近では、世界中のメーカ間のボーダレスな融合・連携など、自動車産業のグローバル化が急速に進みつつあります。

ホリバは、排ガス分析装置の製品化を始めて以来、海外に子会社を次々と設立し、それらの拠点を通じて世界中の自動車産業の発展に寄与してきました。拠点のグローバル化に合わせて、製品そのもののグローバル化・標準化も積極的に進めています。



長野 隆史

Takashi NAGANO

エンジン計測システム統括部  
統括部長

---

一方、グローバル化の大きな流れの中にあっても日々のビジネスはローカルなものです。お客様からの個々の要求に一つ一つお応えしなければ、真の信頼は獲得できないと考えています。つまり、グローバルとローカルをいかに組み合わせかが大きな課題となっています。

ホリバは、その解として「グローバルなパワーをもってローカルな要求にスピーディーにお応えする」というスローガンを掲げ、我々の今後のさらなる発展へのキーワードだと考えております。

自動車を楽しむ一人として、運転する喜びを感じさせてくれる高効率で低エミッションの自動車が、21世紀にもさらなる発展を遂げるものと信じています。また、今後とも自動車産業の発展に寄与させていただきたいと願っております。